

「国家」とは、どうあるべきか

ー持続可能な社会づくりを実現するためにー

氏名： 田辺 記子

学校名： 立命館守山高等学校

担当教科： 地歴・公民

実践教科： 世界史 A

時間数： 4 時間

対象学年： 1 年生

人数： 76 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

- ・過去・現在における世界のさまざまな政治形態について理解し、歴史を学ぶことの意義について考えることができる。
- ・「独裁＝悪」というような既成の概念に対して疑問を持ち、別の見方ができるかどうかという可能性を探ることができる。
- ・「国家」とは、「持続可能な社会」とはどうあるべきか、自分のことばで述べることができる。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	・既成の概念に対して疑問を持つことで、新たな知見を得ようとしている。 ・歴史的事実から、現代における「持続可能な社会」のあり方を考察しようとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	・各国の歴史的背景や地理的・経済的特色を踏まえ、なぜそのような政治形態を取るに至ったのか、説明することができる。 ・「国家」とはどうあるべきか、自分のことばで述べることができる。
	(ウ) 技能	・インターネットや書籍を用いて、必要な情報を抽出することができる。 ・「説得力をもって伝える」ことを意識したスライド作成や発表をすることができる。
	(エ) 知識・理解	・第二次世界大戦後に存在していた世界の独立国家における政権・政治形態について理解している。 ・各国の歴史的背景が、国家形成に大きく影響していることを理解している。 ・ルワンダの歴史や現政権について理解している。
【3】 単元設定の理由	【生徒観】 世界史の授業に対する生徒の意欲・関心は高く（授業アンケート結果より）、授業中の発言は活発に行われており、周囲との意見交換も積極的に行うような生徒たちである。日頃より、「SDGs（持続可能な開発のための目標）が策定された背景には、これまでの歴史的要因が大きく関わっている」ということを考える授業を行っていることから、過去と現在とを結びつけることの重要性については理解をしている。	
✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・	【教材観】 現在のルワンダは、ポール・カガメ大統領のもとある種の「独裁体制」が敷かれているが、これによって多くの国民が「幸せ」に暮らしており、アフリカにおいて高い経済成長率をたたき出している。一方、この単元に入る直前は「ファシズムの台頭 ムッソリーニとヒトラー」という授業であり、民族や国家の利益を何よりも優先させた結果の独裁体制＝ファシズムが生み出した悲劇について学んだ。これからの多文化共生社会を形成するにあたって、ルワンダで起きている現実と、歴史的事実から得られた	

生徒の変容	「独裁体制＝悪」という構造は、どう論理的に比較し考察することができるか。既存の知識に対して、多角的・多面的な視点を持つことにより、よき「市民」となるための思考力や判断力、人間性等を培うのに適した教材である。 【指導観】 「独裁政治＝悪」、「民主主義＝善」は揺るぎない価値観なのか。日頃より、一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性を説いていることから、国家のあり方についても、生徒の既存の知識・価値観に対して揺さぶりをかけることで批判的思考力を養いたい。またこの授業を通じて、「これからの多文化共生社会をどう形成すべきか」という答えのない問いに対して、自分の中の「最善解」を導き出す論理的思考力を養いたいと考える。 【設定時に想定された生徒の変容】 この1単元の授業で、生徒が劇的に変わるということは想定しておらず、あくまで通常の授業の延長にある。しかし一方で、一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性は再認識するものと考え。また、これまでの授業では、自分の考えをレポートの形式でまとめるにとどまっていたため、それを口頭発表するところが新たな取り組みとなる。オーディエンスがいるということは、自分の言いたいことをただ言うのではなく、相手に「伝える」ということを重視する必要があることから、この点における成長が期待される。
-------	---

【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 (0.5)	*2 学期期末考査返却 《0.5 時間》 課題提示「世の中に“良い”独裁ってありますか？」 ・課題の意義を理解する。	・イタリアのファシスト党、ドイツのナチ党による独裁＝ファシズムについては履修済。 *前時、ポーランドの留学生から「ポーランドにおける歴史教育」のスピーチを聞き、ナチス・ドイツの独裁体制について、自分たちの考えをまとめた。 巻末 HP アドレス参照 ・課題の意義、内容、自分のすべきことを理解する。 別添資料参照【資料1】	
2	発表準備 ・世界各国に存在した（する）さまざまな政治形態について理解するとともに、その形態を取るに至った国家的背景についても理解する。 ・独裁＝悪という既存の価値観に対して、自分も他人も納得できる新たな意見を構築し、論理的思考力を培う。 ・オーディエンスにわかりやすく伝えるための工夫をする。	・図書室へ移動する。 ・書籍やインターネットで情報を収集する。 ・自分の意見を構築する。 ・課題規定に沿って発表準備を進める。 *次回授業開始までに、発表要旨をロイロノートに提出する。 *この発表準備は、すべて宿題とすることも可能である。	・iPad ・図書室の書籍

3	グループ (G) 発表 ・ 時間内に自分の考えを表現し、オーディエンスを説得することができる。 ・ 自分と他人の意見を比較・考察し、批判的思考力を培う。 ベストプレゼンター選出 ・ G の中で最も説得力のあった考えを選考する過程で、協働的思考力を培う。	・ グループに分かれ、課題規定に沿って発表を行う。 ・ 発表動画をロイロノートに提出する。 ・ 生徒同士で相互評価を行い、グループ内におけるベストプレゼンターを選出する。 別添資料参照【資料 2】 * ベストプレゼンター 6 名の中から、教員の観点から見ても評価の高い 2 名を選出する。	・ iPad (ロイロノート)
4 本時	最優秀プレゼンターによる全体発表 ・ 「世の中に“良い”独裁はある」、と主張するにはどのような考え方があるのか共有する。 「“良い”独裁」国家ルワンダ共和国の事例報告 ・ ルワンダの歴史と国家体制を知る。 ・ 「独裁」が生み出す「幸せ」の形を知る。 ・ ルワンダの事例を通して、国家とはどうあるべきか考察する。	・ 最優秀プレゼンター 2 名の発表を聞く。 ・ 教員よりルワンダにおける「“良い”独裁」の事例を聞く。 ・ ルワンダの現政権に対する自分の考えを周囲と共有する。 * 次回授業開始までに、①「ルワンダが今後安定して存続するためにはどうしたらよいか」②「“独裁政治”というものに対してどのように考え方が変化したか」③「持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要だと考えるか」についてのレポートを、ロイロノートに提出する。 別添資料参照【資料 3】	・ iPad (Classi) ・ 生徒発表スライド ・ ルワンダで撮影した写真 ・ ルワンダ紙幣 ・ 毎日新聞 2019 年 7 月 14 日付 1 面・3 面
5 (0.5)	《0.5 時間》 まとめ ・ 持続可能な社会とはどのような社会かについて考える。 特別スピーチ ・ ベルギーの留学生から「ベルギーにおける歴史教育」のスピーチを聞く。	・ 提出したレポートについて、周囲と意見交換を行う。 ・ ルワンダの旧宗主国であるベルギーの留学生によるスピーチを聞き、ベルギーではどのような歴史教育がなされているかを知る。 ・ 植民地支配を行っていた国の歴史教育や、今後の自分たちの行動について考える。 別添資料参照【資料 4】 ・ 次単元「被害の拡大と戦争の終わり」では、第二次世界大戦の終結について学ぶ。この大戦の終わりが、必ずしも「悲劇の終わり」ではないことの導入とする。	

【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (2分)	○最優秀プレゼンターの紹介 ・ベストプレゼンターの中から2名選出したことを伝える。	生徒相互評価と同じ基準で教員も審査したことを伝える。	
展開1 (10分)	◆持続可能な国家（社会）とはどうあるべきか ○最優秀プレゼンターによる全体発表 ・プレゼンターの発表を聞き、「世の中に“良い”独裁はある」、と主張するにはどのような考え方があるのか共有する。 *1組：シンガポール、ルワンダ 2組：シンガポール、ベトナム	最優秀プレゼンターの良かった点を全体に共有する。 「開発独裁」がキーワードになっていることを示す。 他の生徒たちがどのような国を選んで「良い独裁」と評価したのかを、簡単に紹介する。 ex) 中国、シンガポール、カンボジア、ベトナム、カタール、オマーン、ベラルーシ、ルワンダ	生徒作成スライド
展開2 (30分)	○ルワンダの事例報告 *教員が JICA 教師海外研修へ参加したこととその内容について、簡単に紹介する。 ・以下、生徒課題と同じ手順で、ルワンダの「“良い”独裁」の現状について報告する。 ①ルワンダの概況 ポール・カガメ大統領 2000年～現在（3選） ②ルワンダのどういう点を「独裁的」と判断するか ・「報道の自由度」ランキング 155位／180か国 ・言論統制の背景にあるジェノサイドの歴史 →ツチの政権を守りたいカガメ大統領 ・政敵排除の実態／歴史の書き換え／憲法改正など ③②のような状況があるにもかかわらず、なぜルワンダを「“良い”独裁」と評価するのか ・経済成長率年7.8％／ビジネス環境ランキング29位／女性議員比率1位／平均寿命67歳	メモは必要があれば取るように伝える。 ジェノサイドの画像は衝撃が強い点を事前に伝える。 ジェノサイドの背景には、「国民の無知」があったという判断から、カガメ政権では「情報アクセス」と「教育」に重点を置いた政策がな	スライド（ルワンダで撮影した写真他）

まとめ (8分)	・ドローンによる血液輸送 ・ICT教育 ・環境対策（ビニール袋全面禁止） Q. 今の発表を聞き、本当にルワンダの現政権は「“良い”独裁体制」を敷いていると言えるか？ ○周囲と意見交換 →全体共有 ○教員からの問題提起 Q. 言論統制は、「批判的思考力」を育まない教育である。ならば、ルワンダ国民はカガメ大統領の後任を、適切に選ぶことはできるのか？ また、「“悪い”独裁体制」になった時、ルワンダ国民は「それは良くない」と言うことができるのか？ ・上記問題提起を踏まえ、最終的に考えたことを次回までにまとめて、レポート提出をする。 ①「ルワンダが今後も安定して存続するためにはどうしたらよいか」 ②「“独裁政治”というものに対してどのように考え方が変化したか」 ③「持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要だと考えるか」	されている点を強調。 ルワンダ紙幣には教育政策への想いが反映されている点を指摘し、生徒に実物を回覧。 次の発問「教員からの問題提起」と直結するような内容が生徒間で話されていないか、注意深く机間巡視。全体共有の際にそうした意見が出た場合は、そのまま「まとめ」へ。 前単元末にファシズムやホロコーストについて書いた小レポートを返却。提出用レポート用紙（【資料3】）を配布。独裁政治に対する自分の考え方の変化に気づかせる。 ルワンダに関する情報の出典となった新聞記事をClassi配信。 現在配信中の「あいのり African Journey」エピソード11・12はルワンダ編であり、授業以外の内容も知る機会となることを紹介（Netflixにて有料配信）。	ルワンダ紙幣 毎日新聞 2019 年 7 月 14 日付 1 面・3 面
---------------------	--	---	--

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）



最優秀プレゼンターによる全体発表（シンガポール）



最優秀プレゼンターによる全体発表（ルワンダ）



ベルギー人留学生によるスピーチ①



ベルギー人留学生によるスピーチ②

【6】 本時の振り返り

全体を通して、生徒が自分たちで事前に“良い”独裁国家を調べていたことから、授業者によるルワンダの報告についても、関心を持って聞き、考えることができたと評価する。授業者がルワンダに行ったということは授業まで生徒には伏せていたため、ルワンダに対する予備知識はなかったものの、事前課題のあったことがルワンダという遠国について学ぶ動機づけとして成立していた。

展開1については、仲間の発表であったことから、授業開始時から高い集中力を持って授業に臨めており良かったと考える。

展開2では、ルワンダの“良い”独裁について、生徒間で意見交換を行う時間をもう少し取る必要があった。また、ルワンダだけのことなく、自分たちの調べた“良い”独裁国家と比較してどうか、という点にも言及しながら意見交換ができると、なお有意義であったと考える。

公開授業時は、ベルギー人留学生による特別スピーチ（5時）を本時50分の授業後（終礼時）に行い、その様子も公開した。生徒のみならず、教員にとっても他国の歴史を学べた点、またそこから自分たちの教育観を振り返られた点は評価できる。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

◆歴史を学ぶことの意義に対する変容（ベルギー人留学生から、「ベルギーによるルワンダ（コンゴ）への植民地支配と現代の歴史教育」についてスピーチを聞いた生徒の感想より）

○「ベルギーは植民地支配をしながらも、ドイツやイタリアに比べて地位は低かった。ベルギーの政治の特徴についても調べてみたいと思った。〈留学生〉は、ベルギーの暗い歴史が教えられていないにも

関わらず知ろうとしていた。僕も日本の暗い歴史について知れるように学習したい。」

○「いつも歴史を学ぶとき、植民地支配をされた側からしか考えたことがなかったけど、立場を変えてみて、最後の“コンゴに謝りたい”という気持ち、歴史から学ぶことだと思う。ベルギーの教育ではあまりベルギーが行った植民地支配を取り上げていないと聞いて、日本も同じだと気づいた。他国が行った植民地支配よりも日本が行った植民地支配を多く、深く知るべきなのに、私たちは自国よりも他国が行ったユダヤ人差別など多く学び、朝鮮・韓国への支配について詳しく学ばないことはおかしいと思う。」

○「自分は学校で習う歴史しか知らないから、学校の教育に疑問を感じて自ら調べている〈留学生〉に感心した。ただ、最後〈留学生〉は謝りたいと言っていたけれど、謝る必要はないと思う。二度と繰り返さないことが一番だと思う。」

○「日本は戦争の中で原爆による被害から平和主義を訴えるため、戦争教育はある方だと思うけど、自国の悪い面をあまり言わないのはどこの国でも同じことで、そこは良くない点だと思いました。」

○「現在のベルギーの学校では、植民地支配の歴史などは先生が教えないというのを知り、そういった悲しい出来事を繰り返さないようにするためにも、正しい歴史を教えるべきだと思いました。日本も過去には中国や朝鮮などを支配していました。そのような歴史を詳しく習わずに、勝手に中国や朝鮮・韓国に対して悪いイメージを持っている可能性もあると思います。それぞれの国の歴史を理解することは、それぞれの国を理解する上でも重要ではないかと思います。〈留学生〉の話を聞いて、歴史を学ぶことは世界と関わっていく中で必要なことであると思いました。」

★このように、生徒は日本と同じように植民地支配を行った他国の歴史教育を知ることによって、改めて自分たちが歴史を学ぶことの意義について考えられるようになった。日本に生まれ、日本に暮らしていれば、その教育に対して特に疑問を持つことは少ないだろうが、他国の事例から自国のことを振り返る良い機会となった。生徒の感想は、単に留学生のスピーチを聞いた感想ではなく、これまでの世界史での学びを“点”から“線”で結んだ結果としての感想という印象を受ける。この単元を入れたことにより、留学生のスピーチが自然な流れの中で学習に落とし込まれた点も、その効果を大きく発揮した要因となったのだろう。今後はこの“線”をさらに増やし、歴史を“面”で、それも“多面的”に見られるように生徒の学びを運がしていく必要があると感じた。

【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】

◆「独裁政治」という異文化に対する意識の変容（生徒の感想より）

○「独裁政治にはメリットもデメリットもあるということを改めて考えるようになった。国民の権限を制限することで国民が幸せになることもあれば、不幸になることもあり、それを左右するのは元首でもあり、国民一人一人である。元首が勝手に主導権を握った場合でも、国民が正しさを見極められるかが大切だと思う。人々はその判断のためにも、広い視野で物事を見極められる力をつけるべきだと思った。」

○「独裁政治という言葉に対して、明らかに悪いイメージという先入観があった。しかし、良い独裁政治はいくつもあることを知って、考え方が変わった。独裁政治自体に良い悪いがあるわけではなく、独裁者やその国の人々の考え方の問題だと思う。」

○「独裁政治は悪いものだと思わなくなった。ナチスのホロコーストを学んだ頃は、人の自由を奪って独裁者が自分のことしか考えていないと思っていたが、開発独裁で国民のために様々な公共事業を行い、国を発展させたり、国民の反乱が起こるのが怖くて自分に権力を集中させている国がある

ことを知り考えが変わった。しかし、私は国の発展よりも、全ての人々の権利・自由を守り、民主的な政治をすることの方が大事なのではないかと考える。そして、個人の意見を持つためにも、政治について学ぶ必要があると考える。」

○「独裁政治について調べて思ったことは、独裁政治は絶対悪ではないけれど、やはり良い独裁はこの世に存在しないということだ。最初から良い独裁は存在しないと考えていたが、それは独裁政治の国は精神の自由が保障されていないことが多いから。もし、自分が政治に疑問を抱いたとしても反論する術がないのは怖く思ったから。独裁政治は誰も独裁者のことを止められないから常に不安がつきまとう政治に思う。独裁者自身の安全は保障されているようなものだから何をしでかすかわからない。」

★このように、ナチス・ドイツのファシズムと他国における独裁政治を比較することで、「独裁」という一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性が再認識されたものとする。悪一辺倒から“良い”独裁の形があることに気がついた者も、またそもそも“良い”独裁などないと考えていた者も、角度を変えて「独裁」を見たことによって、その学びが深まっている様子がうかがえる。また、独裁政治は国や政治体制が悪いのではなく、その責任が自分たち国民にあるという点に気がつけたことは、自分たちが「なぜ勉強するのか」という部分のモチベーションとなりうることから、大きな学びであるとする。

【8】自己評価

1. 苦労した点	いかに「特別な授業」としないか、という単元設定がもっとも苦労した点である。普段の世界史の授業の延長線上にあるものでなければ、この授業はイベント化し、生徒がこれまでの学びと切り離して考える恐れがある。また、「教師がルワンダに行ったから生徒はルワンダを学ぶ」では、あまりにエゴイスティックである。そのためにも、ルワンダ「を」教えるのではなく、ルワンダ「で」教えることを考えなければならず、それは何が適切か、何がもっとも生徒の頭を“アクティブ”にさせるのかということを考える必要があった。これはどの授業でも共通して言えることだが、やはり「主発問を何とするか」を考えることがもっとも労力を使う点であるし、むしろそうでなくてはならないと考える。
2. 改善点	時間の都合上、ルワンダに関してもまだ伝えられていない事実（例えば、ICT教育を発展させようとする政策を掲げる一方で、教師がLaptopの使い方を知らないため、学校では積み上げられているだけの現状もある、など）がある。つまり、この単元を成立させるために“不要”な情報が届けられていない点は、教師による情報コントロールが働いており、改善の必要がある。一度、この単元で考えるべきことが考えられたら、次のステップとして、まだ生徒が知らない事実を伝える必要があろう。一方で、生徒が自分たちでも気がついたように（生徒感想より）、学校で与えられる情報や学びには限度があることから、常に自分たちで“正しい”情報にアクセスするよう努力すべきということは、何度も伝えていく必要があると考える。

3. 成果が出た点	普段より、「SDGs を 21 世紀の今になって策定した背景には、持続 “不” 可能なことをし続けてきた過去がある。よって、その過去を学ぶことは SDGs 達成のために必要な知識となる」ということを念頭に世界史の授業を行っている。 今回の単元の結びは、「ここまでの学びを踏まえて、持続可能な国家（社会）を形成するためには何が必要か」ということを考えさせることであった。その中で、生徒たちは「自分たちが政治に関心を持つこと」、「教育の中でも、特に歴史を学ぶことは重要」という点を多く挙げている。つまり、SDGs が達成される世の中には間違いなく自分たちがおり、そしてその社会を形成するために今歴史を学んでいる、という大きな構図があることを認識している様子が見て取れた。 しかし本来の「成果」は、その上でどのような行動をとるか、という点に表れる。その意味で、まだ本当の成果には出会っていないが、次年度以降、彼らは探究科の授業の中で、自ら課題を設定し、その解決のために自分たちができる“アクション”を考えることとなる。その時に、ここでの学びが活かされることを期待すると同時に、課外活動においても積極的に“外”の人と関わることや、コンテストや講演会などに参加するよう、支援を続けていくことが必要であると考えている。
4. 備考（授業者による自由記述）	特になし

添付資料：

【資料 1】～【資料 4】

- ・ポーランド人留学生によるスピーチ

立命館守山中学校・高等学校 HP【<http://www.ritsumeit.ac.jp/mrc/activity/article.html?id=525>】
(2019 年 11 月 25 日掲載)

- ・ベルギー人留学生によるスピーチ

立命館守山中学校・高等学校 HP【<http://www.ritsumeit.ac.jp/mrc/activity/article.html?id=546>】
(2019 年 12 月 18 日掲載)

参考資料：

- ・世界経済のネタ帳【<https://ecodb.net/ranking/pfi.html>】(2019 年 12 月 11 日最終閲覧)

「国家」とは、どうあるべきか？

ー持続可能な社会づくりを実現するためにー

【問】世の中に“良い”独裁ってありますか？

* ここでは“良い”の定義を、「大衆の大多数を幸せにする」とする。

課題：この問いに対して、全員「ある」という立場に立ち、これを否定する人たちを説得しなさい。なお、その際以下の手順に従うこと。

論点①：第二次世界大戦後～現在までの間、実際に“良い”独裁政治のおこった国、時期、独裁者名をあげなさい。なお、その政権は独立国家（植民地をのぞく）のみを対象とする。また、その政権が現存しているかどうかは問わない。

論点②：あなたはその政権のどういう点を「独裁的」と評価するか、説明しなさい。なお、ここでは民主的ではないと考える点を述べていれば、「独裁的」と評価するものとする。

論点③：②のような状況があるにもかかわらず、あなたはなぜその政権を“良い”独裁と評価するのか。具体的な政策またはエピソードをあげ、論理的に説明しなさい。

【課題実施の目的】

「独裁政治＝悪」、「民主主義＝善」は揺るぎない価値観なのでしょうか。わたしたちは日頃より、一つの事象を多角的・多面的に捉えることの重要性を認識していますね。また、歴史的出来事から知見を得ることで、SDGs を達成するにはどうすればよいかということも日々考えています。そこで今回は、「国家とは、どうあるべきか」を世界各国のさまざまな政権を通じて考えましょう。そして、「持続可能な社会はどう形成すべきか」という答えのない問いに対して、自分が一市民であるということを自覚しながら、「最善解」を導き出したいと思います。

【発表方法】

①発表持ち時間は 1 人 3 分とする（2:30～3:30）

* 内訳は特に定めないが、論点①～③をすべて網羅し、聴衆を論理的に説得できているかどうかを最大の評価基準とする

* 原稿は見ても構わないが、「読む」ではなく「伝える」が意識されていることを前提とする

②発表はグループで行う（6 人～7 人）

③iPad で発表用スライドを作成する

* スライドの作成は、“ZEN プレゼンテーション” の手法にのっとり

④発表の様子はグループ内のメンバーがロイロで動画撮影し、授業後に提出する * ロイロカメラ使用

⑤グループの中で相互評価をし、もっとも説得力の高かった 1 名を選出する

⑥次回授業において、選出されたうちの数名は全体の前で発表を行う

【スケジュール】

◎2 組

2 日（月）課題提示

5 日（木）発表準備（各自）@図書室

9 日（月）グループ発表

12 日（木）代表による全体発表、意見交流等
《公開授業》

16 日（月）まとめ

18 日（水）プリント授業《月曜時間割》

19 日（木）プリント授業

2 学期終了

◎1 組

30 日（土）課題提示

4 日（水）グループ発表

7 日（土）代表による全体発表、意見交流等

11 日（水）プリント授業

14 日（土）プリント授業

2 学期終了

プレゼンテーション評価シート

1年 組 番 氏名

●各自の発表を聞き、以下の基準を参考にして、4 段階（12 点満点）で採点してください。（自分は評価しないこと）

1. 調査力 調査すべき項目①～③についてきちんと調べているか。
2. 論理性 発表の内容は筋が通っているか。納得がいくか。
3. 表現力 発表はわかりやすいか。ZEN プレゼンテーションの手法に則っているか。

	発表者名	1. 調査力	2. 論理性	3. 表現力	合計
1		点	点	点	点
2		点	点	点	点
3		点	点	点	点
4		点	点	点	点
5		点	点	点	点
6		点	点	点	点
7		点	点	点	点

あなたが選ぶ優秀プレゼンターは？

プレゼンテーション評価シート

1年 組 番 氏名

●各自の発表を聞き、以下の基準を参考にして、4 段階（12 点満点）で採点してください。（自分は評価しないこと）

1. 調査力 調査すべき項目①～③についてきちんと調べているか。
2. 論理性 発表の内容は筋が通っているか。納得がいくか。
3. 表現力 発表はわかりやすいか。ZEN プレゼンテーションの手法に則っているか。

	発表者名	1. 調査力	2. 論理性	3. 表現力	合計
1		点	点	点	点
2		点	点	点	点
3		点	点	点	点
4		点	点	点	点
5		点	点	点	点
6		点	点	点	点
7		点	点	点	点

あなたが選ぶ優秀プレゼンターは？

世界史 A (GL) 【まとめ】 「国家」とは、どうあるべきか？ ー持続可能な社会づくりを実現するためにー

問 1. ルワンダが今後も安定して存続するためにはどうしたらよいか。あなたが考える最善解を理由と共に述べなさい。なおその際、優先順位の高いと思われることから順に論じること。

問 2. ナチスのホロコーストを学んだあなたと現在のあなたは、「独裁政治」というものに対してどのように考え方が変化したか(あるいは、しなかったか)。自分の意見を述べなさい。

問 3. ここでの学びを踏まえて(自分で調べた内容も含む)、持続可能な国家(社会)を形成するためには何が必要だと考えるか。政治・経済・外交・教育などさまざまな観点から、その理由と共に論じなさい。

1 年 組 番 氏名

世界史 A

と考える 世界の平和
ーベルギーからやってきた僕が、日本のみんなに伝えたいことー
ベルギー／

● の話を聞いて考えたことを、 に向けて書いてください(ひらがなで)。
例) わたし は にほんじん で、 きょうと に すん で います。

なまえ

● の話を聞いて考えた自分の意見を述べなさい。

1 年 組 番 氏名